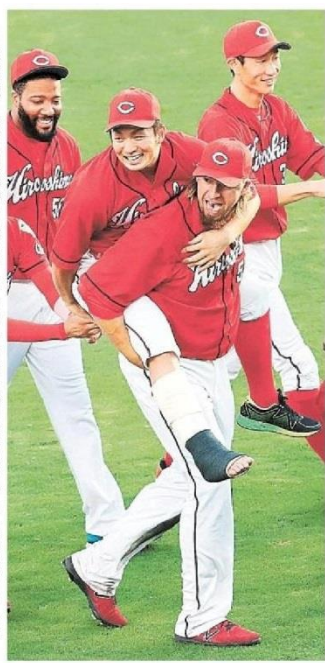


2年連続8度目の優勝を決め、エルドレッドに背負われファンにあいさつした
広島・鈴木（中央）。右は赤松||甲子園



22試合目から「4番」には鈴木が座り続けた。115試合目で無念の負傷離脱となるまでの間、チームをけん引した打率3割、26本塁打、90打点が、2連覇の基盤をつくった。

ブレイクしたばかりの5年目だが、緒方監督が「資質はある。負けず嫌いなところに、他にないものがある」と4番に据えた。不慣れな打順に本人は「4番タイプではないと思うけど、任される以上は自分に合った形を見つけたらいい」と日々重責と向き合った。思うような結果が出せず「いろいろと考えたりして、去年みたいに楽しくはない」と漏らしたことも。だが「一つだけ、貫いた。『弱音は言わない。吐いたところで4番を打つことが変わるわけじゃない』」

4番鈴木、連覇の基盤

「小中学校時代の恩師が『弱気な姿は見たことない』と言えは、母校の東京・二松学舎大付高野球部の市原勝人監督も『そもそも頭の中に弱音っていう価値観、選択肢がないんだと思う』と言う。後ろを向かず、向上心の塊だからこそ、悔しさは人一倍。打てずに感情をあらわにすることもあった。ただそれも今季途中、表では見せなくなつた。ベンチ裏に入つて、サンドバッグをたたいて発散。精神面でも著しく成長した。

石井打撃コーチが求めるのは「理想という枠にはめたくない。強いて言うなら人間的な4番」。チーム、ファンからも愛される23歳の主砲は、大きなけがも乗り越え、必ず強くなってまた戻ってくる。

2017年
9月19日 朝刊

①緒方監督が4番に選んだ理由を書きましょう。

②鈴木選手の人柄に当てはまる言葉を書きましょう。

「 _____ 」を向かず、「 _____ 」の塊

③鈴木選手のストレス発散法を書きましょう。

年 組 名前